

風土記の丘の花だより¹⁵¹

今、そしてこれから見られる植物(2022年9月10日)

まだまだ暑いですが、ガマズミの実が赤く色づき始め、ナンカイギボウシの花茎も伸びてきました。草木は確実に秋を感じ取っているようです。ヌスビトハギが2種、同時に咲いているので、見比べるのにいい時期です。



左の写真がヌスビトハギです。色は白にピンク、小さな花がたくさん付きます。葉は3枚一組になっています(三出複葉)。ヌスビトとは、「盗人」のことで、一説では、花の後にできるマメのさやが、泥棒の足跡に似ているとか言われますが、そんなものを見たことがないので、何ともコメントできません。衣服に着く「ひつつきむし」の一つです。



2枚目がアレチヌスビトハギです。前種よりも鮮やかなピンク色で、花も大きめです。葉は前種より細長いですが(左)、同じく三出複葉です。

アレチというのは「荒地」のことで、そんな環境にでも生えることができる外来種の名前によく使われる言葉ですが、これも例に漏れず北アメリカからやって来た草です。今では街中でも郊外でも空き地があれば入り込んでどんどん増えています。



この黄色い花はカタバミです。外来のオッタチカタバミのように立ち上がりせず、地面に張り付くように生えます。こんな色の葉のものをウスアカカタバミ、もっと赤っぽいものをアカカタバミと分ける人もいますが、その境目が分かりづらいので、まとめてカタバミでいいと思います。この草の周りで飛び回る灰色の小さなチョウは、ヤマトシジミでしょう。



このごろ咲き始めた白い花はタマスダレ、なかなか風情のある名前ですね。南アフリカあたりから持ち込まれた園芸植物でしたが、今では野外にも広がり、野生化しています。とても強い植物で、球根のかけらでも残ると、したたかに芽を出し、どんどん増えて厄介者扱いされることもあるそうです。 松下